

平成24年度第1回

(2012年度)

吹田市景観まちづくり審議会

日時 平成25年2月6日(水)午前10時00分

場所 吹田市役所 中層棟4階 第4委員会室

平成24年度第1回吹田市景観まちづくり審議会会議録 (要点筆記)

鳴海会長 それでは、ただ今から第1回吹田市景観まちづくり審議会を始めたいと思います。本日、傍聴者はおられますか。

松本都市整備室長 本日は傍聴者はおられません。

鳴海会長 それでは、今日の案件について、ご説明をお願いします。

吹田市景観まちづくり計画を推進するための景観形成基準の変更に ついて(諮問)

清水都市整備室主査 内容説明

鳴海会長 はい、どうもありがとうございました。何か、ご質問、ご意見ございますでしょうか。

C 委員 44ページの津雲台の方なんですけれども、説明の中で、公的住宅の建替の基準に準じるけれども、歩行者通路の保存活用の部分については削除するとおっしゃいましたが、削除に至った経緯を教えてくださいか。

清水都市整備室主査 公的住宅の方は、敷地内にこれまであった通路を活かしながら建替を進めておられます。それは地域の方々との話し合いを進めながらやっておられるんですけれども、南側で民間事業をやっておられる事業者さんの方にしますと、セキュリティの問題であったり、中を通して頂くというのはなかなか難しいとのことでした。保存活用するという文言ではございますが、次に建替等する場合に通路を担保しないといけないというのは難しいという話の中で、全体地区としての基準を今回削除させていただきました。

C 委員 削除したくないという意味は、市としては示されたのでしょうか。

清水都市整備室主査 もちろん、もともとニュータウンの団地がそういう形で、敷地内の通路、空間を担保するということを理念に置きながら進んできておりますので、ただ、昨今のセキュリティであったりということで、そういう地区でも民間の方でいくと塀を建てたりというようなケースになっておりま

す。

C 委員　そこを突破出来れば、もっと良い千里ニュータウンになると思うんですけれど。

清水都市整備室主査　真ん中に道路が走っておるんですけれど、この敷地が、もともと1つの敷地、南側にもう1つ敷地があって、公社さんはこういう形で建替区域を決定されました。残りの部分は、もともと1つの敷地なんですけれども、公的賃貸住宅と民間の分譲住宅ということで、仕切りが出来てしまいます。こういった動線は公社さんの方で担保されていますが、南側のこういう動線は途切れてしまいます。補足しますと、南側の敷地、こちら民間の分譲住宅が建設中なんですけれども、そこに1.5m幅の歩行者通路を道路に面して歩道のような形で整備をされております。こちらは地区計画の地区施設として公的に空間を担保するような形で指定しております。

武田都市整備室参事　ここの地区は、地区計画の制度も活用しまして、昨年7月13日に地区計画の方は施行したんですけれども、今、清水から説明しましたように、真ん中に認定道路がありまして、それに面する所の地区施設という形で1.5m幅の歩行者空間を確保させるというところが、今後の長期的な担保という意味では協議が整ったものです。今回の建物では、公社側の方も一定の通り抜け部分の確保はされているんですけれども、地区計画、景観まちづくりの観点からの形成基準につきましても、今後、次の建替の時まで、その場所に確保するというのが、そこまでの約束が長期的には難しいというお話がありました。現段階の施設、建物を見る限りは、一定確保はされているんですけれども、長期的な面で最終的には協議が至らなかった、ということでございます。

D 委員　南側は一事業者さんがされてるのですか。

清水都市整備室主査　同じ事業者さんです。公社さんの事業の流れで言いますと、全体計画自体をコンペに掛けられております。コンペに当選なさった事業者さんが、この公社の建替の工事と敷地の活用を合わせて提案をして事業されたというような形でございます。

久副会長　千里丘北地区の毎日放送の再開発ですけれど、千里丘稲荷がこの辺りで、たぶん一番高い所にございますね。そこからの眺望ってい

うのは、非常に重要なポイントだと思うんですけども、今まで、毎日放送の建物がそれほど高くなかったので、眺望は確保出来てたんですけども、この辺りが高層になってきた時に、眺望の確保は留意点に入ってますでしょうか。

清水都市整備室主査 事業規模が大きいものですから、本市の条例に基づく環境アセスメントも実施されております。その時に近景、中景、遠景とそれぞれ異なるシミュレーションをしながら、環境影響というのを測ってきたというところがございます。ただ、稲荷からの眺望点については、設定はされておらなかったと記憶しております。今回、保存緑地という形で通路も含めて整備されておりますので、鳥居も以前は山の中に埋もれているようなイメージだったんですけど、道路にきれいに並んでくるような、見てとれるような形になってきております。基準化に際しましては、その部分のところまでは、この中に盛り込めていないところがございます。

久副会長 致し方ないという部分はあると思うんですけど、非常に重要なポイントだと思うんですね。ですから、もう少しきめ細かな場所の読み取りというのが今後必要ではないかなと思います。昔から知っている立場からすると、ポップになった鳥居の列というのは本当に良いのかなと、こんもりした中にあれがあったから非常に趣きがあったものなので、ああいう形になって、どうなのかなと思います。昔は千里丘稲荷から万博の全景が見渡せたんですね。万博の全景が見渡せる場所って、それほど無いと思うんですね。そういう意味でも、ここ千里丘稲荷の場所ってすごく重要なんですよ。そのあたりがもっときめ細かな場所の読み取りっていうのがほしかったなという気がします。

鳴海会長 関連してですけど、このA地区は、管理者はどなたですか。

清水都市整備室主査 吹田市です。

鳴海会長 神社は？

清水都市整備室主査 神社は法人さんがお持ちです。神社の敷地とそれに続く参道とを千里丘稲荷神社さんがお持ちということで、それを囲うような形で吹田市が管理する公園がございます。

鳴海会長 今、久副会長がおっしゃったように工作物しか入っていないが、本当は緑の方が大事だと思います。吹田市として、もうちょっと風情の

ある植栽が出来ないものでしょうか。是非そうしてほしいなと思います。むき出してあんまりないですよ。お稲荷さんはみんなこんもりした感じだと思います。

清水都市整備室主査 　ただの緑地というよりは鎮守の森のような位置付けになるかと思いますので、今回も公園部局と大分、この基準策定の時に協議をしておるんですけども、そのあたり市内でも景観の目を通して、維持管理ということで木を切ったりというようなこともありますが、内部で調整出来るように進めてまいりたいと思います。

鳴海会長 　せっかくですから、お参りしたい位の環境にしたいですね。鳥居って工作物ですけど、それも是非配慮して頂きたいと思います。

C 委員 　もともとの所を知らないなので、教えて頂きたいんですけど、もともとはどうであって、何であんな事になっているんでしょうか。悪い景観みたいになってますけれども。

清水都市整備室主査 　この神社に絡んでという事でございますか。

C 委員 　もともとはどうなっていたんでしょうか。

鳴海会長 　もともとは緑が鬱蒼としていました。

C 委員 　ルートが変わったんですか。

清水都市整備室主査 　ルートは変わっておりません。

C 委員 　緑はどこにいったんですか。

清水都市整備室主査 　今は砂利敷きになっておりますけども。

C 委員 　切っちゃったんですか。

清水都市整備室主査 　道路の開発工事に伴って、この辺りも整備されたという形です。

C 委員 　誰が整備したんですか。

清水都市整備室主査 　事業者でございます。

C 委員 　知ってたら絶対に駄目ですよ。開発の法律的に、こういう風に整備しなきゃ駄目なんですか。

清水都市整備室主査 　法律的に申しますと、こうしなければならないという事は無いと思います。

C 委員 　吹田市が買い取るのに、何でこんな残念な事になってるのか、とても不思議なんです。

清水都市整備室主査 事業者さんが開発の申請をなさって、こういうものを建てたいという中で、安全性であったりとか、そういった部分の審査を経まして、必要な公共施設については、無償で市の方に帰属頂くとというような形で、道路、公園、下水であったり、市の公共施設の管理者との技術的な協議の上で、工事に入られるということになりますので、基本的に事業者さんがどう計画なさって、それにどう働きかけをしたかということでございます。

C 委員 吹田市は知っていたということですね、こうなることを。それはとても残念です。何か景観的に、どこか入るような余地はなかったのですか。

清水都市整備室主査 環境アセスメントを2年10ヶ月程かけてしております、事業者さんもその中で出来る限り環境配慮をして、項目の中に景観も要素として入ってございますので、景観担当がアドバイザーの先生のアドバイスも頂きながら、建物であったり計画については、話をさせて頂きました。

C 委員 良しとされたということですか。

清水都市整備室主査 良しというよりは協議をさせて頂いたというような状況でございます。

鳴海会長 柵の内側のような緑がまだ残っていたんだと思うんですがね。そっちの方が良かったんじゃないですか。

C 委員 こんな事が二度と無いようにしないといけないと思いますけどね。

清水都市整備室主査 もともと山の中に稲荷神社さんがあって、稲荷神社さんがお持ちの土地は神社の周りだけで、接道も無いような状況で、周りは全て毎日放送さんがお持ちだったということで、全部民間事業者さんに売却されましたんで、その事業者さんがそこを出来るだけ残しつつ事業を計画なさったというところでございます。

C 委員 ここの緑は残しても何も問題無いですよ。

清水都市整備室主査 事業者さんの計画にもよると思うんですけども、ちょっと手が及んで無いところがあるのかと思います。

B 委員 豊中でも、震災の時に使っていない森があって、その森をヘリポートにしようという計画が大阪府からあった時に住民が立ち上がって、それは良くないということで、住民の立ち上がりでその計画がなくなったんですね。

この時に住民がどのように関わったのかなという感じがあるんですけども。関西は関東に比べて森が非常に少ないんですね。鎮守の森ということで、非常に重要な所が、「これがきれいに見えますでしょ。」というコメントが余り理解出来ません。「それで良かったね。」というのが不思議な感じがするので、森を大切にしていこうという住民とかの考え方は、どのように伝わっていったのかなと思います。自分の地区の事を思い出して言っているだけで、これがどうのこうのっていうのは私も現場に行っていないので分からないですけども、いかがだったんでしょうか。

清水都市整備室主査 環境アセスメントでも市民の意見をお聞きしながら進めてきております。緑地と公園という位置付けになりますけれども、都市計画法等で事業者が必ず取らなければならないものより、大幅に上回って確保していると思います。当然この緑というのは、周りの方々にとっても非常に関心の高い場所ですので、ご意見はたくさんあり、その上で事業者の方がこういう形で対応したという風にお聞きしております。この建物は当初、60m、20階建てという計画がございまして、建物の大きさについてはアセスをやってる時から、そちらの方の意見も多かったというようにお聞きしております。結果としては15階建てとしたんですけど、事業者も自らが出来る範囲で対応したという風には認識しております。

久副会長 環境アセスの時の通常の景観のシミュレーションですよ、円を書いて、この眺望点をどこかにとるといふ。そういう取り方をしてしまうと、多分、千里丘稲荷は入らないと思うんですよ。もう少し、きめ細かな設定があったら良かったかなと思います。開発業者さんもそういうのを読み取りながら開発をしてほしいし、開発協議の時の市役所側もそういうところをきちんと指導出来るような体制がほしいですし、申し訳ないですけど、アセスの審査会の時にどなたかが気がつけば、どうにか出来たんじゃないかなと思うんですけど、ほとんどここまでフリーパスできたということですよ。

清水都市整備室主査 フリーパスと言いますか、それなりのハードルを越えながらですけど、神社からの眺望という点で言いますと、そういうことでございます。

久副会長 眺望だけではなくて、この辺り一面山だったわけですよ。そこでどんどん開発されて、最後の原風景を残す砦みたいな場所ですよ。こ

れが無くなってしまうと、ほとんど丸裸ですよ。そういう意味でも、最後の砦を頑張ってほしかったなと思いますし、神社があるってということは、それなりの意味があるわけですから、ここが一番高い所ですよ。昔の風景で言うと、こんもりした森をずっとお稲荷さんの所まで行って、ぱっと眺望が開けていくという参道と境内の組み合わせだったんですよ。そういう神秘さみたいなものが、全く無くなってしまうということですから、すごい残念だなと思いますけども。今後もう少し植栽が入るのかどうか、そのあたりの工夫はまだ余地があるんじゃないかなと思いますけども。

鳴海会長 はい、どうもありがとうございました。

E 委員 屋根の形態と意匠の素材のところなんですけど、全般を通してですけど、以前は明度と彩度の基準があったんですけど、それが消えているんですけども、やっぱり明度と彩度まで規定するのは難しいということで消えたんでしょうか。

清水都市整備室主査 今回の事業者さん、土地所有者さんとの協議の中でいきますと、ここに落ち着いたというところでございます。勾配屋根というのも、例えば、共同住宅ですと、住宅棟が公社住宅ですとよく勾配屋根を使われてますので、そういったところを基準化しているんですけど、例えば、その足元にある集会所であったり、ごみ置き場であったり、そういったところも勾配屋根を使う場合には、そのあたりの基準が適用されるということもお話をしながら、結果、ここに落ち着いたということでございます。

E 委員 今までの基準よりも高い明度、彩度が使われる予定ですか。

清水都市整備室主査 いえ、計画自体は実際には収まっております。今後の基準として策定するには、ちょっと難しいということでした。

F 委員 この基準の内容自体が良いかどうかということも大事かとは思いますが、先日、現地を見てきた時に、この基準が本当に有効性を持っているのかなと疑問を感じたところがあって、例えば、津雲台で言いますと、45ページの5番の駐車場のところに、「道路や敷地境界より出来る限り後退し植栽等の直接見えない工夫をする。」とありまして、で現地に行くと敷地境界の際の所に、上下する機械式の立体駐車場が建っているんですね。この基準であれが満たされているとしたら、この基準って一体何だろうっていう感じがしました。千里丘の方でいくと、例えば、51ページの最後

の造成計画のあたりに、「既存の斜面緑地を活かし高低差は、法面仕上げなどにより、出来る限り圧迫感を感じさせないように工夫する。」と、で現地に行くとコンクリートの3mか4m位の垂直の擁壁がどんとあって雑壇造成されているわけですね。書いてある文章と現地がそぐわない感じがして、原因がタイミングの問題なのか分からないですけども、骨抜きみたいな形になっていくのは、かなりまずいと思います。やはり、書いてある事は厳格に捉えていって、このへんは指導して頂きたいと思います。でも、造成なんか今から指導してどうなるのって気もしますが、かなり初期の段階から注意して行っていった方が良いんじゃないかなという気がしました。

鳴海会長 色々課題があると思いますので、実際、仕事を進めていく上では、今、頂いたご意見を参考にして進めて頂きたいと思います。

とりわけ、緑について、一般的な市民的感覚は二つあるんですよ。落ち葉があるから樹木は切ってもかまわないという人と、出来るだけ自然にこもりしている方が良いいって二つの考え方がある時に、市としても落ち葉がイヤだから、木は切る方が良いいという方に安易に賛同しない方が良いいと思うんですね。切ったら無くなりますからね。植える方が時間が掛かります。ですから出来るだけ、窓口でもどこでも良いいから、頑張らないと、ただ逃げていだけだと良いいならないんですよ。そのへんは頑張ってもらわないといけないと思うんですね。公園の部局でここの管理をやると思うんですけど、色々な意見があるんですよ。木が茂っていると、ごみを捨てられてしまうとか、子どもがそういう所へ入り込んで危険だとか、危ないのをみんな逃げていくと砂利道になってしまうじゃないですか。そうすると、木が生えるところが無くなりますから、どうして木が必要なんだとか、そういうものを行政としても頑張らないと、みんな裸になっていきますよ。コンクリートにしたら、水をかけたら綺麗になるし、だけど、緑って生えないでしょ。そういうところで頑張らないと景観は良いいならないので、是非頑張りたいと思います。

それでは、各委員の意見を十分反映させたものにするように、これからも努力して頂きたいと思いますが、議案第1号を原案の通り承認することによってよろしいでしょうか。

一同 (異議なし)

鳴海会長 確認ですけど、地図は最新版に変えるということではなかつ

たでしょうか。

清水都市整備室主査 新たに開発された新しい地図にということですか。計画に当てはめて地区を指定しているわけではないので、その時点での最新の建設前の白地図を元に、地図を作っております。あくまで地区を明示するものですので、それでこれまで進めてきたんですけれども、新しい土地利用を反映した地図に変更するというようなことでしょうか。

鳴海会長 それは大分前に議論したような気がするんですけど、どうなったんでしたでしょうか。確認しておいて下さい。例えば20年前の地図が入ってあったらえっと思うんですよ。実現した形の地図の方が良いような気がするんですけど、それも考え方ですので、以前、どういう議論をしたか確認しておいて下さい。それでは、次の議題ですが、その他の報告をよろしくお願いします。

平成24年度事業について(報告)

清水都市整備室主査 報告内容説明

鳴海会長 何かご意見、ご質問がございましたら、お願い致します。

G委員 景観こども広場の参加者は何人だったのでしょうか。

清水都市整備室主査 実際にまち歩きに参加されたのは5名です。センターでの発表の時に集合して頂いたのがプラス20名でございます。その他、地元の方にも大分お世話になって、まち歩きの時に一緒に歩いて頂いた方も含めると全体で44人の参加者でございます。

G委員 まち歩きの5人と発表の20人はお子さんですか。

清水都市整備室主査 お子さんです。

G委員 時期的に暑かったとかは無かったのでしょうか。

清水都市整備室主査 時期的には暑いのもあったんですけど、7月の夏休みに入ってすぐの日曜日に設定したのですけれど、近くの小学校でチラシをまいて頂いたり、児童センターさんからも案内して頂いたんですけど、6年生が臨海学校に重なっておりまして、その辺は事務局が至らなかったところなんですけど、児童センターの近くに千里竹園小学校がありまして、ほとんど、そのお子さんが児童センターさんに寄って帰るような状況でしたの

で、そういったところで、だいぶ児童センターさんに頑張ってもらったということ
でございます。

G 委員 児童センターなり大人の方の協力がすごかったと思うんですけど、もうちょっと PR があって参加者がたくさん集まると良かったかなと思う
んですけど。

C 委員 参加者につきましては、児童センターをつかまえたので、これはい
けると思っていたのですが、実際は学校の行事と重なってしまうというのが、
日程を決めてからのことだったので、なかなか難しかったというところがありま
した。それはちょっと残念なところで、ある程度の年齢の子ども達、4年、5
年、6年生の子ども達に参加してもらいたいと思ったのですが、そこがなか
なか難しく残念だったんですけども、时期的には、採れたての桃と、トマト
と、地元の物をあれだけ食べた事は、子ども達は初めてだったと思います。
そういう意味では、良い時期で、一緒に参加した私たちも、「こんな素晴らしい桃がこんな所でできているの。」っていうような体験も初めてしました。た
だ、心配なのは、桃の畑を守っておられるお爺さんも90歳という方ですし、
農園の方も持っておられる方が80歳近い方で、相続されたらどうなるか分
からないという危機に面してまして、結構きわどい時期で、この数年でどう
なるか分からないような資源を回ったというところがありますので、今後のフォロ
ーを何か考えていかないと手遅れになると思います。3年後にこれが出る
かっていうと出来ないかもしれないという、吹田の財産を見てきたという意味
では、意味はあったかなとは思いますが。市役所の方も皆さん行ってもらいま
したので、市役所の方のまち歩きとしても良かったんじゃないかなとは思
います。

H 委員 私も富山の方で防災とかでまち歩きをやっているんですけど、保
護者の方との関わり方をうまくしたら良いのかなと思っているんです。私ども
の方では、行きも帰りも子どもさんを迎えに来たりということなので、子ども達
が色々見た物をマップにしたら、保護者の方も身近なまちの発見ができて、
何らかに関わって頂けたらいいなみたいな感じでは思っていますので、発表
会に、お子様だけではなくっていうのをされてはいかがかなと思います。

C 委員 それは、そうなっていました。保護者の方もいらっしゃいました。

H 委員 もうひとつは、「いいでしょこのまち作品展」、素晴らしい作品ばか

りなので、データベースみたいな感じで見れたらいいなと思うんですけど、その辺はどういう風に整備されているんでしょうか。

清水都市整備室主査 整備は出来ていないんですけど、昨年からは、景観資源をとにかく探そうと、市の職員が隅々まで行って探すということも出来ないものですから、地元の事を知っている方から素材を頂くといいのを目標としておりますので、昨年も蓄積してますし、これをどう活用するかというのは今後の課題ではあるんですが、そういった形では活用していきたいと考えております。

H 委員 そういうのが、色んなところで手軽に見られたりホームページに掲載されると、先ほどの神社のような事にはならないのかなという風に思ったりしました。

C 委員 春日神社は都市計画道路の真上にあるんですね。都市計画道路が出来れば、あの神社は山ごと全部つぶれるという運命にある所です。

清水都市整備室主査 大阪府さんが全体的な計画の見直しをされてまして、実現性も含めまして今検討しているところでございまして、その結果が近々というような話をおうかがいしております。

久副会長 「景観こども広場」、色々情報が集まって地図にもなりましたが、あれを使って今度景観まちづくりに何か展開をするというのはないんでしょうか。

清水都市整備室主査 そこまで考えてなかったんですけども、地図は頂いておりますが、眠っている状況でございます。

久副会長 こういうイベント事を私もしますけれども、イベントで20人集まって1日楽しんで良かったね、という事では無いと思うんですね。やっぱり、景観まちづくりイベントである限り、これがきっかけになって何か動き出すところまで行って、初めて成功じゃないかなと思いますんで、そのあたりをもっとうまく仕掛けをしてほしいなと思います。親御さんが来られてたってことという、千里新田のまちづくり協議会にしても、30代、40代って、なかなか、こういうまちづくり活動に参加しづらいんですね。そういう方々が来られたわけですから、その方々を巻き込みながら、次の展開というのも、協議会としても良いチャンスではなかったかなと思います。さらに、C委員もH委員も

仰ってた話の続きでいうと、ここの資源というのが見つかって、「これ大切にしようね。」っていう事になって初めて守られたりするわけですね。そういうようなデータが集まってきたわけですから、そこをまちづくり構想とか、まちづくりの基礎マップとか、そういうところへ広げていって頂くと非常に効果があるかなと思います。先ほどの千里丘稲荷と同じ話だなとH委員からもありましたけど、桃山台という地名は、ここからきているわけですよ。あそこだけじゃなくて、もっとたくさんの桃山があったから桃山台というわけで、その桃山が無くなってしまうと本当に良いのかなというところが気になる場所ですね。それから、春日神社が都計道路で飛んでしまうというのも典型的な話で、道路課の方は、計画する時、そういうのを読み込まないわけです。ただ真っ直ぐ行って、一番線形で取り易い所を取るわけですね。そうすると、地域の資源っていうのは飛んでしまう、典型的な話です。茨木ですけど、新名神の工事をしています。千提寺という集落を通るんですけども、もともと隠れキリシタンがずっと住まわれていた所です。3年前から地元に入らせてもらっているんですけど、クルス山というのがあるんですね。クルス山って名前で分かると思いますけども、キリスト教の墓地のあった山なんですよ。そこをスパッと飛ばしてしまっているんですね。一番大切な山を飛ばしてしまってますから、どうしてこういう計画になったんですかって、そこでも言ったんですけど、開発に入る前、計画に入る前に、もう少し地元の情報をしっかりと読み込んで頂くという工夫があれば、今後は計画作りの時にこんな失敗というか二の舞は起こらないかなと思います。景観こども広場の話に戻しますが、色々な資源が地図の上に書き込まれたわけですから、今後、千里新田地区で開発が起こる時に、そういうベースマップをしっかりと読み込んで開発をされる、あるいは開発指導をされる、というようなストーリーが描けたら良いんじゃないかなと思います。是非とも頑張ってください。

武田都市整備室参事 次の報告事項、平成25年度事業の方で、先ほどの景観形成地区の指定というのも1つの成果という形で、それから景観啓発についても、どちらを向いて、そしてその結果をどういうふうに活かすかというのも一旦振り返りながら、来年に向けて頑張っていきたいと思っております。

鳴海会長 H委員からの写真をデータベース化してホームページで見れ

るようにするというお話があったかと思うんですが、データの精度がとても重要なので、応募頂く時に、この作品はどういう活用をしてもいいですか、と、お断りしてやると思うんですけども、プリントの状態でもらうのもあれば、データで頂くのもあると思います。景観行政に相応しいように、精度の良いカメラと撮影条件の良い所で撮影すれば、ちゃんと綺麗に見えますから、そこが一番入り口だと思うんです。人に見せるんだから、ちゃんと撮りましょうとか、せっかく撮ったデータは見せて恥ずかしく無いように、その精度でいつもキープしておいて、「こんなんです。」って見せたら、「あっ、すごいな。」と思うでしょ。粗い黒っぽくなったデータを見ても誰も良いと思わないですよ。入り口の問題ですので、是非、気をつけてやって頂きたいと思います。良い景観ってというのは、良い条件で見せるのが一番です。本当に基本的なところで、もうちょっと工夫すれば、もっとたくさん広がっていく可能性があると思いますので、是非よろしくお願ひしたいと思います。次の25年度について、お願ひします。

平成25年度事業について

清水都市整備室主査 事業内容説明

鳴海会長 はい、どうもありがとうございました。今のご説明に、何かご意見、ご質問があったら、お伺いします。

C 委員 吹田市の景観の取組と市民の気持ちとが、うまくいっていないというのをずっと感じています。景観アドバイザーというものをほしいと思う段階に全然至っていなくて、例えば、千里新田の春日農園を守ろうと思ったら、ほしいのは景観アドバイザーじゃないんですね。税金対策を一緒に考えてくれる人であるとか、生産緑地をどう守るかとかを一緒に考えてくれる人がほしいのであって、景観基準を決める為のアドバイスを頂きたいとは誰もそんな風には思っていないというところがあって、ずいぶんずれがあります。それから地域密着型で、その場所のまちづくり協議会とか、そういう人達が声を上げてくれるのを待っておられるようですけれども、吹田市は、「あリスク吹田」というのを作っておられますよね。あれに参加されている方々っていうのは全域から来られてて、西尾邸の事を熱く語られる方が、千里ニュータウンに住んでおられたりするんですよね。そういう方が、「西尾邸の周りにこ

んな家建っていいのか。」っておっしゃられるような実情があって、意外と地元の方は、「まあまあ、こんなものだろう。」と思われているけれども、遠くの方は強く思われるんだけれど手も足も出ずに、地域の町内会をちょっと突っついてみるけれど、何も言ってくれない、みたいな事になったり、景観ってそういうものなんです。守りたいと思っている、これは吹田市にとって大事な景観だと思っている人が必ずしもそこに住んでいるわけでは無いし、守らなければいけない景観は必ずしも景観アドバイザーがアドバイス出来るものでも無いので、どうしたら良いのかが難しいんですけれども、例えば、この水田を守るとか、ため池を守るとか、西尾邸の周りの景観を守るとか、テーマがはっきりすれば、それに対して集まって来る人がいて、その人達は勉強したいとすごく思われると思うので、地域密着型も必要ですけれども、そうじゃない方向もあっても良いんじゃないかと思います。大きな話だと、今、話題の東京駅が守られたのは、地元でもなんでも無い、守りたいという人達が何十年も駅長さんにバレンタインデーにチョコレートを持って行って「残して下さい。」と言いつけた、みたいな話がある位ですので、地域密着型でやるには限界があるんじゃないかなと思います。改めて景観まちづくり計画を見ますと、千里新田地区は何も載ってないんですね。竹林の眺めって載ってあるんですけど、今、地元で話題になっている千里山ロイヤルマンションは載ってるんですね。こういうものをどうやってフォローしていくかっていう道筋を考えながら、是非とも、千里新田は頑張れる方は多いと思います。

D 委員 景観はやはり地道な市民の努力という部分がありますが、ニュータウン等で事業者が入って来て、まちづくりを変えてしまうという観点からいくと、事業者側にすると、そこが例えばマンション建設、あるいは地域を活性化する、ブランドを上げるものがそこに残っていれば、例えばPRになると思えば、お金を掛けてまでPRをしていって、まちとして残っていくと、結果的に販売促進に関わってくるという観点がございますので、そういう観点で、是非、「残すべきだよ。」、「地域のブランドに残るんだよ。」、「それがマンション建設の発展、まちづくりにもつながるんだよ。」という、市からの強い要望を頂ければ努力していくと思います。それと合わせて、事業者が努力をしたのであれば、事業者にもアメとムチでいけば、アメの部分を、例えば、色々な形で市のPRに使って頂くとか、ということであると、事業者もやった結果が

残っていけば、次の地域で、「こういうやり方でまちづくりが出来ました。ここでもこういう協力をしますよ。」と言っていきますので、地域を残すという観点でご指導頂き、そこにアメを与えて頂けるような方策を頂けると仕事がしやすくなるかなという風に思います。

久副会長 D 委員のおっしゃる通りだと思うんですけど、やっぱりきれいごとではなくて、どうビジネスとか事業につながるかという観点も非常に重要だと思うんですね。具体的には茨木市では、市民サイドで勝手におもしろい動きがあります。例えば、茨木湯という銭湯が廃業になりましたけれども、そこを買い取られて、「カフェ茨木湯」という、そのままの形でカフェにしているわけです。洗い場とか浴槽がそのままテーブルになって使われているような、そういうおもしろい動きがあって、茨木では、古民家を改修したカフェが数件出来上がっています。一方でそういう面白い活用が吹田であるかなっていうと、市が買い取るとか、市が動いて何かをやる、ということの方が多いですよ。もっともっと市民が自分達のお金も出しながら活用して行って、きちんとビジネスになっているというストーリーを描くと、動きがもっと活発化していくと思うんですよ。その為には景観では無くて地域活性化であったり、まちづくりの形で入っていかないといけないと思います。都市整備部というのは、開発がらみのまちづくりもやっていらっしゃるわけですから、そちらの方から攻めて、結果として景観まちづくり、景観が出来上がっていくという戦略をとった方が良くないかなと思いますし、地域自治推進室の方からもつついていくという複合的な見方をしないと、景観だけ切り取ってもしんどいのではないかなと思います。

鳴海会長 吹田操車場跡地の開発で、市も事業者も頑張ってるやらないといけないと思うし、周りの住民もずいぶん期待もしてるし、期待もしてるけど問題視もしてるわけですよ。岸辺駅の北側ですかね、あの辺は古いお寺とかあるし、道路も狭いですし、古い村だから路地があります。操車場跡に新しい開発が起きると、色んな動きが北側の路地に入っていくんですよ。そうしたら地域の人って困るでしょ。困るけど、どうしたら良くなっていうのを悩んでるし、色んな影響があるのを期待もしているわけですよ。そういう動きがあるのに、なかなかまちづくりに動いていないような気がするんです。そういう箇所が結構いっぱいあるんじゃないかと思うんですけど、一体ど

うなっているのかなと思います、ちょっと質問で申し訳ないですけど。開発は開発、周りは周りということで粛々と進んでいるのですか。

森都市整備部長　私は40年間、道路と公園の方におりまして、10月の異動で都市整備部の方に来させて頂いたんですけど、中西邸にしても、水路を改修したり、路地裏整備というんですか、道路公園部の方で岸部の路地裏、それと垂水、江坂、山田という地区を決めまして、計画をどういうふうに作っていかうか、新しい開発に伴いましてバランスをどう取っていくのかという中で、今、お話を聞いている中で、庁内連携を密にするような動きがやっぱり必要なのかなと思います。岸部の新しい町と古い町の調和をどのように取っていくのか、というのが行政にとって一番の課題であるのかなと、地域の方々の協力と立ち上げをやっていかなければならないような気がします。

鳴海会長　地域の人はいいいまちにしたいと思っていると思うんですよ。いいまちにしたいと思う事が景観のまちづくりなんです。だから、吹田の計画は景観まちづくりって書いてあるのは、そういう意味で、景観まちづくりという二つの言葉をつけて計画にしてあって、綺麗なまち、美しいまちにするだけが狙いじゃなくて、みんながいいまちにしたいと思うようにしていかないといけないという思いで、こういう計画にしてあるわけですよ。それを景観だけという風に、せばめて展開するとやる事が無いんですよ。取り組み方が変なんじゃないかって、みんな思っているんですね。お渡ししたと思いますけど、景観計画を読んで、学生にレポートを作らせて、パワーポイントを作って、それを市に差し上げたんですけど、学生の方が一生懸命に考えているんですよ。これからヒントを得て、いいまち、おもしろいまちにするにはどうしたら良いかって、結構おもしろいことも言ってるんだけど、そういう方向になかなか動かないのはどうしてなんだろうか、というのを質問したいんですけど、どうですか。

森都市整備部長　まちづくり、景観、それと私たちが思っていますのは世代、おじいちゃんの所に孫達も一緒に住みたい、そういう風なまちづくりが吹田市は欠けているのかなと感じます。親の近くに子ども達が帰ってくる、というまちづくりってありますよね。そういう気持ちが少しずつ薄れているのかな、それが今、言われる諸問題に発展していくのかなと感じます。整備だけ

で、本当に町が良くなるのか、その中でおじいちゃんと一緒に暮らすんだ、というまちづくりが欠けている気がします。

鳴海会長　　そういうまちづくりをやる為の、これが一番の手がかりだと思います。

森都市整備部長　　そうですね。今後、積極的にやっていかなければならないと思います。

久副会長　　色んな部署の方とお付き合いをしていますので、市職員さんと市民の関係ってというのが一定理解出来るんですけども、市民や地域に寄り添うっていう姿勢が、もっともっと無いといけないのではないかなと思うんですね。何か事業があったら行かれると思うんですけど、常に地域の方と膝を突き合わせて、一緒に悩み考えていくっていう姿勢が、もっともっとあるべきじゃないかなというように思います。茨木なんかは、そういう意味では、一部の熱心な職員さんだけですけども、地域に入り込んで一緒に悩み、考えていくっていうプロセスを踏んでいますから、そういう動きも出てくるんですね。今回のこのパネルもそうだと思うんですけど、市が全部取り込んでやってしまおうんですよ。市民と一緒に考えていく、動いていく、というやり方ももっとあって、市民の方には失礼な言い方ですけど、市民の目を育てていく、市民の動きを活性化していく、というお手伝いを市役所がするということですね。先ほどの中西邸もそうです。整備をするのはちゃんとやっておられます。けれど、そこをきっかけに周りの方々の意識を高め、東村の集落として、まちなみとか、まちづくりをどうするんや、ということ市役所が考えるんじゃなくて、地域の方と一緒に考えていくというスタンスが、もっともっとあってもいいのかなと思います。東村に入れないのは、何の事業も乗って無いからで、事業に乗ったら入れるんです。事業に乗らない時から、大切な所に入っていけるような体制というのも必要かなと思います。具体的に言いますと、奈良県が建築土木職の人で手を挙げた人に対して「まちづくりコンシェルジュ」という任命をしているんですね。今、15名位おられます。これから大切にしたいと思っているまちなみ整備の地域に、お呼びがあったら入り込むっていうことで、もう5年、10年、ずっとボランタリーに入り込んでるといふのがあっていいですね。それも1つの方策かなと思います。

鳴海会長　　他にご意見がございましたら、お願い致します。

B 委員 何か深すぎて、大変な事になってるなという印象があるんですけど、例えば募集しても掛からないというのは、私は事業主なんで、何でもキャンペーンを行ってゼロといたら、「何故？」と思うんですよね。それはどうしてかっていたら、それがもともと良いのかっていう事と、どういう風に活動をしたかっていうのを常に考えていくわけですけど、市役所の方が待っていて出来るものは何一つ無いと思うので、どのように見せるかというのは、自分達の思いを会議の中だけでおっしゃっても分からないことなので、どのように見せていくかを、もっと徹底的に内部で討論されて見せていく、それから、行った所には旗でも立てていくとか、印を付けていくとか、そういう分かりやすい事をやっていくのが一番かなと思います。21年に表彰してますよね。その人達が貰った後、どうなったのかも分からないし、例えばその方たちに来ていただいて、それからの事を話し合う場の提供だとか、インターネットが普及しているので、そこにピンポイントでマーカーが付いてるとか、その場所を知りたかったらマーカーを押すとか、時代が進んでいるのに誰もデータを見れないみたいなのは有り得るのかなと思いました。私達の仕事でも、訪問して買って頂きます。その方が1年間、いつ、何をどういう形で何回買ってるか、月に何回か、何日飲んでいるかデータを残すんですよ。それによって営業管理をするので、データがどういう風になってるのかなと思います。データは市役所でオープンに見れるという形にすれば、やはりみんなしたいけど、それがどこの事か、世界が別にあると思っているところがあって、それではどこも広がらないと思うので、広げるにはどうしたら良いかってもう少し考えていって、広めたところに印をつけてくというのも重要だし、お話しされた方と、例えば1回でも会議に出席されたときに、名刺に肩書きを書けるとか、企業の名刺に書けるとか、ホームページに入れられるとか、企業のホームページに入っていたら信頼できるとかあるじゃないですか。もう少し積極的に関わっていかないと、ここだけで良い事をしてても誰も知らないです。マチュピチュなんてどこにあるか知らなかったのが、広がって皆行くようになって、来もらえるから良かったのかなって、道路も整備されたりするわけでしょ。そういう仕掛けを考えていかないといけないと思います。観光地化していくといっても、他所からしか来ないわけだから、他所にどうアピールしていくか、そして、地元もそんないい所に住んでいるんだとか、小学校の授業であったり

など。小学校で授業をさせてもらったらいかがですか。もっと働かないと、資料を作るだけで働いてるのかなと思います。申し訳ないですけども、結果がゼロといったら、そういう風に私は思います。

森都市整備部長　今、言われるように、観光センターも含めて、全体的なまちづくりという形ですね。

B 委員　やった人には、何かお知らせが届くとか、お洋服屋さんなんか1回買ったら、行かないのに1年以上きますよね。本当にまめに企業はやってますよ、1回でも関わりがあったら、そこからどう広げていこうとか。今回も子どもと関わったわけですから、お知らせをしていくって事を常にやっていけないといけないし、その続きを作らないと。「こういう風に思ってます。」というのは評論家しかないわけですから。市役所って税金をもらって働いているわけですから、「私達を使わないともったいないですよ。」みたいなとこがないと、もったいないんじゃないかなと思います。

久副会長　もっと具体的にいうと、市民ってよく言うでしょ。誰ですかということ。市民が35万もいたら、誰をターゲットにしてるかという話です。例えば、ここの地域に入るんやったら、誰々さんに声を掛けたら良いとか、あるいは、ちょっと、こういうところを動かそうと思ったら、誰々さんと呼んでくれば良いとか、そういう個人のつながりをどれだけ持つておられるかということだと思えます。それを来年度1年、全ての都市整備部の職員さんに、何人、市民に知り合い、友達を作るかっていう、そこを勝負にしたら分かりやすいのではないかなと思うんです。

H 委員　B 委員がおっしゃった、市がもっと積極的にというのは、まさにそうだと思うんですね。富山市ってあんまり人が来ないような所なんですけど、今、ちょっと活性化してますのは、ライトレールですとか、それなりに市が積極的にやっているんです。何故ライトレールやセントラルとかに力を入れたかって言いますと、副市長が交通がお好きで、どうせやるんだったら景観的にも魅力あるものにしなきゃ、と色んなところを巻き込んでいかれたから、少しいいまちになりつつあるんじゃないかなと思うんですよね。待ちじゃない、待っていたら良くないので、市からどんどんやって頂きたいと思いますし、データベースの話ですけど、まだ出来てませんって、去年もそういう状態だったような気がするので、本当に変えられないといけないんじゃないかなと思

ます。

鳴海会長 この間も市の方に申し上げたんだけど、博物館ももっと活用してほしいと思います。非常に奥まった所にあって、ですけど、展示も結構面白いし、色んな資料集もなかなかレベルの高い物を作っているんですよ。そういうのが、よっぽど好きな人しか知らないっていうのが問題で、もっと活用しないといけないと思うんですけどね。ストックはいっぱいあると思うんですよ。他所の町に比べると、うらやましい位ストックがいっぱいあるのに、それが生きていないというのはどうしてかなと、いつも不思議に思ってるんです。

久副会長 先ほど、H委員が富山の話をして頂きましたけど、富山は古いまちなみがすごい残っているんですよ。伝統的建造物保存地区もたくさんあるし、そこまでいっていない古いまちなみもかなり残っています。何故これだけ富山は残してるのかな、すごいのかな、と思ってたんですけど、この前やっと謎が解けました。それは、昭和40年代の最初から教育委員会がしっかり調査をして記録も残しているし、そして、その時に、「これ、残しませんか。」と呼びかけておられるんです。そういう長い蓄積があってこそ、古いまちなみが残っているんだなという風に思いました。市民がそのレベルまできてない時にも、「大切ですよ。」ということをお願い続けてきているし、資料もしっかり残してるというところの成果だなと思いましたので、是非とも、吹田市もそういうようなスタンスでいてほしいなと思います。

H委員 実は去年の12月に高岡市の金屋町という所が伝建地区になったんです。どのような整備をしたかといいますと、別に重要建造物があるわけじゃないんですけど、将来のまちなみとして市民の方が地元で一生懸命やられてたのと、本学が関わってきたのと、高岡市が積極的にやられたということが、結果的に伝建地区までいったということだと思うんです。ですから、積極的に関わって頂かないといけないし、そういう意味では、八尾も毎年何十万人が来て頂きますけど、あれもホープ事業のその前位から、教育委員会がびしっと張り付いているというのがありますので、吹田は拝見すると良い所がたくさんありますので、いいまちを残して頂きたいなと思います。

鳴海会長 色々のご意見は尽きないと思いますが、市民委員の方が今日で終わるんですか。今年は1回しか開いてないので、あまり発言する機

会がなくて申し訳ありませんでしたので、今日少しお話しを頂いて、こういう景観まちづくりをして頂きたいとか、ご意見を言って頂ければと思います。

G 委員 回数がなくて、なかなか皆さんとお話する機会もなくて、不勉強で景観の方に頭が持っていけなくて、良い意見も言えなくて申し訳なかったんですけども、「いいでしょこのまち」で募集した写真とか絵画は、すごく良い観光資源だと思います。吹田っていうと何が有名かっていうと万博公園の太陽の塔が思い浮かぶんですけど、それしかないのかっていうと、そうじゃなくて、たくさんあります。それが、どこかに埋もれてしまうのかなと思って、出来るかどうかは分かりませんが、ポストカードにして観光部署で売っていると、たくさんの人目にとまったりとか、イベントをする時に利用出来るとか、他所から来た方達にお土産に差し上げるとか、そういったことも考えられたらなと思います。ですから資源を共有するという視点を持って頂きたいと思います。景観のこの部署だけで良いものを取り込んでしまうのはもったいないと思いますし、それから景観というのは、結果を見て景観と言ってるのかなと私達は思うんですけど、もちろん計画があって、計画の時にはイメージをするんだと思うんですね。市民としたら、結果を見て、JRの吹田の周辺が綺麗になったとか、何故かなという自転車の有料の駐輪場が出来たんですね。それってすごく効果があって、江坂の駅前もそうなんですね。ですから私達は100円取られるのが損だからとかいうことじゃなくて、大きな意味で景観を守る所にお金をそこで使っているんだなということがすごく大事なことで、市民の目からすると結果しか見えないんですね。開発の問題とかも出てましたけれども、開発の情報というのが市民に知らされていないんですね。知った時には、もうすでに遅かったというような、色んな問題を抱えていると思うんですが、個々に問題意識を持ってる人達の掘り起こし、去年あった子ども達のまち歩きにしても、そこから派生していく、つなげていく努力っていうのがすごく大事だと思います。単発で募集をして、1回こっきりで終わるのではなく、つなげていくというような考え方が必要ではないかなと思います。とりとめのないことですみません。色々勉強させていただきまして、どうもありがとうございました。

F 委員 回数が少なかったんですけども、どうも色々ありがとうございました。この審議会自体の回数は少なかったんですけど、2年間、市民委員という

立場にあると、市報に載ってる色んなイベントとかには、これが無かったら行かなかったのかもしれないけれども、行ってみようかなという感じになりましたし、その中で吹田市内で色んな動きをされている方々と知り合う機会も色々ありましたので、自分にとっても、非常に良かったなと思っています。吹田の魅力って多様性があるというのが一番の魅力かなと思っているんですね。古いまちなみも在り、新しい綺麗な所も在り、千里ニュータウンは半世紀で懐かしいような所も在り、緑も在り、その多様性の面をつぶしていかないように、どこ見ても同じまちなみ、みたいな事にならないようにして頂ければなという風に一人の市民としては思っています。回数が少なかったですし、あまりお役に立てなかったと思いますけれども、どうもありがとうございました。

鳴海会長　それじゃあ、事務局の方にお返しします。